

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

# 思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

## かぬまし ごかまち 鹿沼市と五霞町が上下流交流会を開催

### 鹿沼市・五霞町の児童が上南摩地区（水源地）を見学

去る8月23日、鹿沼市・五霞町共催の上下流交流事業「水のふるさと見学ツアー」が開催され、小学生の児童17名が親御さんとともに水源地である鹿沼市の上南摩地区を見学されました。

このツアーは、「水の大切さ」や「水道の水はどこから来るのか？」を学ぶとともに、そば打ち体験や鹿沼の伝統工芸「組子<sup>くみこ</sup>」作り体験などを通じて水源地の食や文化に触れることで水源地域と下流地域との交流・相互理解を目的とした催しです。

この催しの中で、思川開発建設所職員が児童向けのスライドを上映して一般的なダムの役割や「五霞町の水はどこからくるのか?」、「地球上の"ま水"は少ない、だから水は大切に使いましょう」といった説明を行いました。その後、南摩ダム建設予定地を見下ろせる展望台へ移動した皆さんに、児童向けの説明用パネルを用いて「ダムの作り方の今と昔」、「環境を守るための思川開発建設所の取り組み」などを説明しました。展望台に上がった児童たちは、眼下の眺望に「うわー高い!」、「すごく広いなあ!」といった歓声を上げていました。また、事業予定地の見学後は、次の見学場所へ移動するバスの中で「水に関するクイズ」に挑戦してもらいました。



【そば打ち体験】

参加した児童や親御さんからは、「初めて経験することばかりで、楽しい一日だった。」、「説明がわかりやすく、野生動物や植物にもやさしい工事をしていることを知ってうれしかった。」、「大満足のツアーだった。また企画していただければ必ず参加したい。」といった感想が寄せられました。

こういった交流会事業が、今後更に発展していくことを期待しているところです。



【事業予定地を見下ろしながら】



【みんなで記念撮影】

いたがひきた

## 板荷引田トンネル(仮称)本体建設工事

トンネルが貫通しました



水資源機構と栃木県とで合併施行により実施している、一般県道板荷引田線の板荷引田トンネル(仮称)本体建設工事(延長703m、平成25年12月22日～平成28年3月7日、施工は栃木県が実施)は、7月29日(水)に工事関係者が見守る中、ついにトンネルが貫通しました。

このトンネルは、板荷地区と引田地区を結ぶ重要なアクセス道路であり、一般県道板荷引田線の改良(延長2750m)の一部として実施しているものです。改良が完了し全線開通となれば、板荷地区と引田地区間の移動時間が大幅に短縮されることとなります。

貫通の当日は、掘削機が最後の岩盤を突き破り、トンネル内に光が射し込んだ瞬間に工事関係者から拍手が沸き起こりました。その後、施工業者によって坑口が清められ、工事関係者が全員で貫通を祝って万歳を行いました。

板荷引田トンネル(仮称)本体建設工事が終われば、一般県道板荷引田線の改良は、残りのトンネルの付帯工事とトンネル前後の板荷側及び引田側との取付部分工事を実施することとなります。水資源機構では引き続き栃木県と連携して実施していきますので、ご協力の程、よろしくお願い致します。



【貫通の光が射したトンネル内】

なんま

## 南摩地区での防犯パトロールに取り組んでいます！



思川開発建設所では、建設現場周辺地域への貢献を目的として、南摩地区防犯協会及び鹿沼警察署(西沢駐在所)と連携して、防犯パトロールに取り組んでいます。

具体的には、現場等へ出かける際の移動中に周辺で異常等がないか確認するとともに、子供たちが危険な場所にいたら声かけをしたり、事件や不審者(車)等を発見した場合は警察に通報することとしています。また、機構車両に『防犯パトロール実施中!』のステッカーを貼り付けて防犯を呼びかけています。こういった日常のパトロール活動により、犯罪への抑止効果に少しでも貢献できればと思います。

**防犯パトロール実施中!**

南摩地区防犯協会・水資源機構思川開発建設所

ステッカーを付けた機構車両が通った際は、ご理解をいただきますとともに、何かございましたらお気軽に職員へお声をかけて下さい。

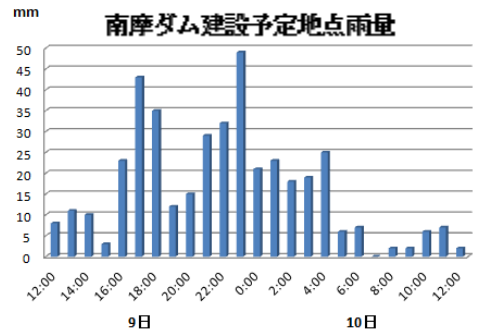
# 平成27年9月関東・東北豪雨

南摩ダム建設予定地点でも400ミリ／日を超える雨が降りました

台風18号の影響による豪雨は、茨城県の常総市で鬼怒川の堤防が決壊するという甚大な被害をもたらしました。栃木県内でも記録的な大雨により、各所で冠水や氾濫、流出等の災害が発生し、その爪跡が今でも残る箇所が見受けられる状況となっています。

思川開発建設所の所在する鹿沼市でも9月9日から10日の未明にかけて、類を見ない雨量が記録され、土砂崩れや河川への流出による家屋被害をはじめ、道路の損壊、宅地や農地への土砂の流入など、様々な被害が発生しました。

南摩ダム建設予定地点で水資源機構が観測した雨量は、時間雨量で最大49mmを記録し、そのような強い雨が長時間続いたため日雨量（24時間の累計）が400mmを超えるという途方もない雨となりました。



【鹿沼市広蔵寺付近での土のう作り】

思川開発建設所では、10日から非常態勢をとって周辺のパトロール等を実施し、周辺住宅地への冠水被害を防ぐための土のう積みを行うなど、消防団とともに水防活動を行いました。

白鷗大学附属幼稚園、与良川排水機場での冠水被害に対する支援活動を行いました。

大型のポンプ搭載車両2台を持ち込み、思川開発建設所のみならず、水資源機構本社や近隣事業所から人員を派遣し、10日～13日の4日間、昼夜連続での排水作業を実施しました。思川開発建設所からは延べ19名の職員を派遣して、思川沿川に位置する小山市の災害復旧の一翼を担いました。



【小山市羽川西浄水場での排水作業】

今回、被災された皆様に対し、お見舞い申し上げますとともに、一日も早く通常的生活へ戻れますよう、お祈り申し上げます。

## 自然とのふれあい、たくさんできたかな？



かみなんま

上南摩小学校「森林環境教育学習」が開催されました

8月28日、鹿沼市立上南摩小学校の皆さん（児童・教職員計35名）による「森林環境教育学習」が、思川開発建設所が管理する環境保全地で開催されました（主催：上南摩小学校）。環境保全地は、工事で影響を受ける植物を移植し、保全するために整備している場所です。

学習では、まず思川開発建設所環境課職員から環境保全地の概要や水の大切さについて説

明を行いました。その後、講師を務める鹿沼自然観察会会長の渡邊知義（わたなべ ともよし）先生から、今回の学習の目的や環境保全地周辺の自然環境についてのお話があり、参加の皆さんは熱心に聞き入っていました。

説明後は班毎に場所を移動し、環境保全地周辺での昆虫採集や野鳥、植物の観察を行いました。一時天気が危ぶまれましたが、児童の元気な声に後押しされたのか、学習の間は天気が回復し、児童は持参した虫網で嬉しそうにトンボやバッタ、チョウなどたくさんの昆虫を捕まえていました。

最後に講師の渡邊先生から、捕まえた昆虫についての説明や環境保全地周辺で観察される動植物の話があり、学習は終了しました。



【講師の話熱心に聞く皆さん】



【たくさん捕まえるぞ！】

## 平成27年度優良工事等表彰式

思川開発建設所では、平成26年度に完成した工事等の中で特に優れた成績を収めた工事、業務、技術者に対し、7月21日に「平成27年度優良工事等受注者表彰式」を行いました。

優良工事表彰は、工事が安全に実施され、その内容、配置技術者等が特に優秀であり、水資源機構事業のイメージアップや技術開発等で機構事業に寄与された受注者を表彰するものです。

安全管理優良工事表彰は、労働安全衛生への取組みが優秀であり、無災害で工事を実施あるいは竣工した工事を表彰するものです。

また、優良業務表彰と優秀技術者表彰は、測量、調査、設計業務、現場技術等業務を対象として、その成果が特に優秀で、かつ業務の取組みが優れていた受注者及び技術者を表彰するものです。

それぞれの受表彰者は以下のとおりです。

優良工事表彰…株式会社星野建設  
テクノ産業株式会社

優良業務表彰…いであ株式会社  
優秀技術者表彰…大坪二郎氏（いであ株）

安全管理優良工事表彰…株式会社星野建設、株式会社富泉興業、株式会社大澤土木工業



受彰された皆様、改めておめでとうございます。また、優れた技術や安全管理で機構事業にご協力いただいたことに感謝申し上げます。

## 思川だより第50号の発行にあたって

思川だよりは、平成13年10月に創刊号を発行して以来、14年の年月を経て、今回第50号を発行するに至りました。この間、付替県道等の道路工事への着工、移転80世帯全ての移転完了、仮排水路トンネル及び放流管敷設トンネル工事の実施など、関係する皆様のご理解とご協力のもと、事業を進めてまいりましたが、平成21年に国土交通大臣から事業の検証を進めるように指示があり、現在は、新たな段階に入らないという状況となっています。

創刊号を発行した平成13年は、南摩ダム建設予定地の水没移転者で組織される「南摩ダム補償交渉委員会」と『南摩ダム建設に伴う損失補償基準』の合意に至り、集団移転地の2箇所（現在の思い川団地、光ヶ丘団地）を確定して造成工事に着手するなど、水没移転者の方々の協力を得て事業が大きく動いた年です。同年12月には『思川開発事業南摩ダム建設に伴う損失補償基準に関する協定書』の調印式を栃木県知事、鹿沼市長の立ち会いのもとに執り行った年でもありました。

思川だより第50号を発行するにあたり、当時の皆様のご協力に想いを馳せ、「我々は犠牲者ではなく最大の協力者だ」という補償交渉委員会委員長の調印式での言葉をもう一度噛みしめ、14年間の主な歩みを振り返りたいと思います。



【思川だより 創刊号（平成13年10月1日発行）】

### 平成13年12月 南摩ダム損失補償基準の妥結、補償契約に着手



平成14年 3月 事業実施方針の変更の指示

平成17年 3月 水源地域対策特別措置法に基づく水源地域整備計画が決定

平成18年11月 付替県道工事に着手

平成19年 2月 工事用道路工事に着手



【県道改良前】



【県道改良後】

平成20年 6月 南摩ダム関係の移転世帯、全80世帯が移転を完了



【思い川団地】



【光ヶ丘団地】

平成21年 3月 仮排水路トンネル及び放流管敷設トンネル工事に着手(23年3月完成)

平成21年 5月 思川開発導水施設建設工事の工事公告(22年1月に入札中止)

平成22年12月～ 事業の検証を継続して実施中

平成26年 6月 一般県道板荷引田線 板荷引田トンネル(仮称)本体建設工事の起工式

現在、事業検証の早期完了を目指して作業を進めています。引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

## 編集 後記

関東、東北を襲った豪雨は、各所で観測史上最大を記録するなど、未曾有の大雨と災害をもたらしました。

今までなかったような気象現象が頻発していると感じるのは、決して気のせいではないと思います。日頃からの防災意識を大切にしましょう。

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2

Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211

<http://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html>